

2024年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2024年2月14日

上場会社名 東和ハイシステム株式会社 上場取引所 東
コード番号 4172 URL <https://www.towa-hi-sys.co.jp/>
代表者 (役職名) 取締役社長執行役員 (氏名) 飯塚 正也
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 児玉 祐輔 (TEL) 086-243-3003
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期第1四半期の業績(2023年10月1日~2023年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第1四半期	470	△31.6	55	△69.7	109	△40.8	74	△40.5
2023年9月期第1四半期	687	33.3	183	140.0	185	142.2	124	160.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第1四半期	33.28	—
2023年9月期第1四半期	55.97	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第1四半期	3,999	3,705	92.6
2023年9月期	4,061	3,733	91.9

(参考) 自己資本 2024年9月期第1四半期 3,705百万円 2023年9月期 3,733百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2024年9月期	—	—	—	—	—
2024年9月期(予想)	—	30.00	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年9月期の業績予想(2023年10月1日~2024年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,170	△8.7	228	△31.5	268	△36.3	188	△35.7	84.46
通期	2,302	12.8	368	59.5	418	8.6	293	13.4	131.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年9月期1Q	2,228,000株	2023年9月期	2,228,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年9月期1Q	49株	2023年9月期	49株
------------	-----	----------	-----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年9月期1Q	2,227,951株	2023年9月期1Q	2,228,000株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的状況 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、コロナ終息に伴う国内消費活動の持ち直し等、一部では緩やかな回復基調が見られたものの、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の悪化、中国経済の先行き懸念など、世界情勢はより深刻さを増しており、依然として、景気下振れリスクは予断を許さない状況であります。

そのような中、歯科業界におきましては歯科医師の高齢化や医院承継者不足等が進んでおり、加えて、コロナ感染症で深刻化した経営環境の回復が遅れている歯科医院によるシステム買替控えや閉院・廃院する歯科医院の増加が続き、併せて、前期のオンライン資格確認等システム導入に向けた駆け込み需要の反動も当第1四半期累計期間の業績に大きく影響いたしました。

しかしながら、当社は第9回ワールドデンタルショー2023に出展し、業界初となる歯科医師が診療中に手袋を外さなくても音声で電子カルテへ入力でき、会話録音・文章化により診療トラブル防止に繋がる「AI・音声電子カルテ統合システム(Hi Dental Spirit AI-Voice)」及び、国民皆歯科健診制度の導入を踏まえ、歯科衛生士不足という社会問題の課題解決や歯周病治療に係る専門的検査項目の自動算出機能による大幅時間短縮を可能、世界で幅広く使われている歯周病検査表(Perio chart)と国際基準のWHO・FDI(国際歯科連盟)方式に対応した「Perio chart Pro.Voice(AI・音声歯周病検査システム)」を展示したところ、多くの歯科医師・歯科衛生士の方々から絶大な反響をいただき、その場で歯科医師から注文を受けるなど大好評でした。これらの活動等を通じた結果、第47期第1四半期累計期間におけるAI・音声電子カルテ統合システム及びAI・音声歯周病検査システムの販売台数は、既に第46期通期を大きく上回る結果となり、月額利用料による安定収益源にも繋がっていることから、今後は、主力商品である電子カルテ統合システムの売上と併せて、新たにストックビジネスモデルを構築することで、将来の増収増益に大きく寄与すると考えております。

更に、当社は、2023年11月19日、厚生労働省による発信において、オンライン資格確認の対象範囲が医療扶助(生活保護受給者)へと拡大、医療機関・薬局が診療情報、薬剤情報、健診情報を閲覧できるようにするプログラム改修について交付される助成金についても迅速に対応し、多くの歯科医院のニーズに応じて参りました。

このような取組みの結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高470,522千円(前年同期比31.6%減)、営業利益55,510千円(前年同期比69.7%減)、経常利益109,960千円(前年同期比40.8%減)、四半期純利益74,143千円(前年同期比40.5%減)となったものの、自己資本比率92.6%、売上高経常利益率23.4%、引き続き、高水準を維持しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は3,999,691千円となり、前事業年度末と比較して61,943千円減少いたしました。

a. 流動資産

流動資産は1,525,491千円となり、前事業年度末より780,106千円減少いたしました。主な内訳は、現金及び預金の減少955,242千円と、有価証券の増加199,200千円、売掛金の減少45,444千円であります。

b. 固定資産

固定資産は2,474,200千円となり、前事業年度末より718,162千円増加いたしました。主な内訳は、ソフトウェアの減少11,537千円、投資有価証券の増加749,335千円、繰延税金資産の減少13,573千円であります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債は294,319千円となり、前事業年度末と比較して33,521千円減少いたしました。

a. 流動負債

流動負債は244,964千円となり、前事業年度末より33,840千円減少いたしました。主な内訳は、未払金の減少23,191千円、未払法人税等の減少25,128千円、未払消費税等の増加19,956千円、賞与引当金の減少11,249千円であります。

b. 固定負債

固定負債は49,355千円となり、前事業年度末に比べて大きな増減はありませんでした。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は3,705,371千円となり、前事業年度末と比較して28,421千円減少いたしました。前事業年度に係る配当金の支払いが111,397千円生じた一方、四半期純利益を74,143千円計上したことにより利益剰余金が37,253千円減少、その他有価証券評価差額金が8,832千円増加したことによるものであります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は、25,772千円であります。なお、当第1四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第1四半期累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因について、重要な変更はありません。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の業績予想につきましては、2023年11月13日に「2023年9月期決算短信[日本基準]（非連結）」にて公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

国は医療DXの確実な実現に向け、医療扶助対応をはじめとしたオンライン資格確認の利用拡大へ取り組み、4月には訪問診療対応やオンライン診療対応、また、マイナ保険証の利用促進に向けた支援金の開始やマイナンバーカードの診察券、公費受給証としての利用対応についても進めております。そこで当社は、国が進める医療DXへ率先して後方支援していくと共に、当社が考える歯科DX実現の3要素 ①医療情報セキュリティを構築 ②様々な業務を統合・一元管理 ③手袋を外さず音声で電子カルテ作成 を推進して参ります。

一方、歯科医院において、患者さまに関するあらゆる情報を院内で共有する為、日々の処置内容や会話内容、患者さまの変化で気づいたことなどを書き記すものとして、手書きのメモ用紙が使われております。その手書きのメモ用紙をサブカルテとして利用している為に“手書き文字を他の人が読むことができない” “紛失・置き忘れが多い” “翌日のサブカルテ準備に時間が取られている” “保管する場所が足りない” など様々な悩みが上がっていることから、歯科医師の約8割がサブカルテのデジタル化を希望していると言われております。

そこで、当社は、日立のAI音声認識技術と「Recwere」の音声テキスト化機能を連携・融合させることで、夢のシステム第3弾、AI・音声サブカルテ（以下、Sub Karte-Voiceという）の開発を始動して参ります。この「Sub Karte-Voice」は、歯科医院が使用している独自フォーマットのサブカルテをiPadアプリにデジタルデータとして取り込み、そこに日立のAI音声認識技術と「Recwere」の音声テキスト化機能を連携・融合させることで、院内だけでなく訪問診療先でもAI・音声による入力と院内・院外での情報共有が可能となる業界初の画期的なシステム「Sub Karte-Voice」を新たに独立したシステムとして、今夏の製品化を目指して参ります。

そして、このたびの「Sub Karte-Voice」と「Perio chart Pro.Voice」の2つを大きな軸として、販売エリアを全国規模へと拡大、主力商品である歯科電子カルテ統合システム（Hi Dental Spirit XR-10i）及びAI・音声電子カルテ統合システム（Hi Dental Spirit AI-Voice）の拡販へさらにさらに繋げて参ります。

このような取り組みにより、主力商品であるAI・音声シリーズのシステム売上と併せて、新たなストックビジネスモデルによる安定収益基盤の構築で、中長期的には売上高35億円、経常利益10億円、純利益7億円の達成を目指して参ります。

そして今期は、株主還元策として年間配当を前期の50円から60円へと増配、中間配当を実施する予定とし、更なる企業価値向上にも注力して参ります。引き続き、歯科業界にとって最も大きな課題であるDX実現を力強く支援すると共に国民のQOL向上にも貢献して参る所存であります。是非ともご期待ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,402,910	447,668
売掛金	230,132	184,687
有価証券	200,800	400,000
商品	169,732	186,385
前払費用	31,752	24,964
未収入金	4,151	8,818
預け金	266,118	272,783
その他	—	183
流動資産合計	2,305,597	1,525,491
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	322,586	318,258
構築物（純額）	2,148	2,102
車両運搬具（純額）	9,798	8,924
工具、器具及び備品（純額）	30,367	29,625
土地	349,929	349,929
有形固定資産合計	714,830	708,841
無形固定資産		
ソフトウェア	172,806	161,268
ソフトウェア仮勘定	80,069	80,069
その他	2,017	1,991
無形固定資産合計	254,893	243,328
投資その他の資産		
投資有価証券	710,600	1,459,935
敷金及び保証金	35,358	35,328
繰延税金資産	39,138	25,564
その他	1,216	1,201
投資その他の資産合計	786,313	1,522,029
固定資産合計	1,756,037	2,474,200
資産合計	4,061,635	3,999,691

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,915	53,573
未払金	130,146	106,955
未払法人税等	54,745	29,616
未払消費税等	6,867	26,823
預り金	12,999	26,151
賞与引当金	11,249	—
その他	9,880	1,844
流動負債合計	278,804	244,964
固定負債		
退職給付引当金	49,036	49,355
固定負債合計	49,036	49,355
負債合計	327,841	294,319
純資産の部		
株主資本		
資本金	343,080	343,080
資本剰余金	297,480	297,480
利益剰余金	3,118,662	3,081,408
自己株式	△77	△77
株主資本合計	3,759,145	3,721,891
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△25,351	△16,519
評価・換算差額等合計	△25,351	△16,519
純資産合計	3,733,793	3,705,371
負債純資産合計	4,061,635	3,999,691

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
売上高	687,752	470,522
売上原価	202,575	119,437
売上総利益	485,177	351,085
販売費及び一般管理費	301,882	295,574
営業利益	183,294	55,510
営業外収益		
受取利息	0	2
有価証券利息	2,172	5,509
受取配当金	—	5,000
受取手数料	150	275
投資有価証券売却益	—	43,344
その他	192	319
営業外収益合計	2,515	54,449
経常利益	185,809	109,960
税引前四半期純利益	185,809	109,960
法人税、住民税及び事業税	52,333	26,111
法人税等調整額	8,785	9,705
法人税等合計	61,118	35,816
四半期純利益	124,691	74,143

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。